

GW 潤沢ベース 北穂高岳～潤沢岳 山行報告

【山 域】 北アルプス南部

【ル ー ト】 上高地～潤沢～北穂～潤沢岳～穂高岳山荘～潤沢

【登山方法】 雪山登山

【日程】 2019年4月27日(土)～29日(月) 前夜発

【参加者】 CL土屋 佐藤(健) 澤田(淳) 宮城 小宮山(記録)

【行 程】

4月27日 上高地 8:00～潤沢 15:20

4月28日 潤沢 5:20～北穂高岳 8:40～(休憩)～潤沢岳最低鞍部 13:00～潤沢岳山頂 14:25～
穂高岳山荘 14:50(休憩)15:20～潤沢 16:20

4月29日 潤沢 7:30～上高地 12:30



【内容】

4月26日 20時ごろより、順次ピックアップして中央道へ。GW 初日とあって混雑を予想したが、意外に順調に進む。2時に沢渡Pに到着し仮眠する。

4月27日 7:00 タクシーで上高地へ向かう。今年は雪が多く残っているとの事。数日前の降雪でさらに雪景色になっている。上高地は観光客と登山客でにぎわっていた。千葉よりは確実に賑やか。

8:00 出発。明神など各ポイントに登山客が大勢いる。曇～雪がちらちら降る中歩く。本谷橋は雪に埋もれていて、夏道ではなく沢沿いを進み、15:20 潤沢に到着する。100Lのザックに荷物をいっぱい入れて歩荷して下さった土屋さん、まるで宇宙飛行士が担ぐ生命維持装置のように大きい荷物をありがとうございました。

風が強い。テントが飛ばされないように四苦八苦して設営する。固定の紐が束ねられており、それが凍ってほどくに難儀した。テントの中でも強風で風が抜ける。明日は大丈夫だろうか…。というより今夜大丈夫？外で「キャー」とか声がするたびにウチのフライが飛ばされたのではないかと確認する。着られるものを全部着て就寝する。

4月28日 3時に起床すると、うそのように風がやんでいる。よかった、行けそうだ。モ

ルゲンルートとまでは行かないが、うっすらと赤く山肌が変わる。準備をして 5:20 に出発する。多くの人が北穂・奥穂と、それぞれに出発している。私達は北穂へ。涸沢小屋にパトロールの人が立っており、登山者に声をかけている。行先は？何人？経験は？等々。我がチームもベテランさんが答えてくれ、おミソの私は少し申し訳なく通り過ぎる。以後、ひたすら登る。登る。登る。硬い雪に前日の 20cm 程度の降雪がかぶさっており、ちょっと怖い。頂上に近づくとさらに急登となり、一步一步慎重に進む。時折、硬い斜面があり、しっかり蹴りこまないと滑りそうになる。天気はすこぶる快晴で、空を仰ぎ見たい、が…とてもできない。途中の休憩で足場を入念に作り、やっと空を見上げる事ができた。真っ青で気持ちいい！来て良かった！

8:40 北穂山荘に到着する。山荘のかなり上部から雪が切り取られた跡があり、小屋が半分埋まっていたのが解る。山頂から山荘に降りるのも、まるで石切り場のように、きれいに切り取られた雪の階段を降りていく。山荘の方々、本当にありがとうございます。

トイレタイムを兼ねた長めの休憩をとる。小屋は明日からの営業だそうだ。本当は今日からだったが、荒天だったため遅くなったと。

良い景色でずっと眺めていたいが、気を取り直して出発。ここからが本番、なんですよ。ほとんどの人が北穂(又は奥穂)のピストンの中、涸沢岳方面へ向かう。先行 P が一組いる。すれちがった P はないので、縦走はこの 2P だけの様だった。涸沢岳稜線から見る景色は絶景で、本当に気持ちがよかった。空が青い、こんなにいい天気、雪の景色はなかなか見られない。稜線は雪はわずかで夏と変わらないが、飛騨側のトラバースでは時折雪がついてルートが消えている。急な雪のトラバース…。土屋 L の「ロープは適宜出しますが、怖いと思うところは出すので言ってください」の言葉の基、ロープお願いしま〜す、と数回申告する。土屋 L がリードで進む。ロープをさばきながら、進む姿が美しい。すごい。新雪のトラバース、手掛かりの少ない岩、硬い雪の斜面と、一つのトラバースにも色々な箇所がある。土屋 L と佐藤さんにロープを確保してもらいながら、女子チームは順次進む。澤田(淳)さんと宮城さんはスイスイ行く。私の番だ。ペツルのタイプロックでロープに確保しながら慎重に進む。雪のトラバースを通過、岩…手掛かりが…ん〜、あった、足の置場が、う〜、ここか、と通過、カチカチの斜面にアイゼンの前爪を指し、ピックを指しながらカニのように横に進む、右の岩に取り付きたいがバランスが…、あゝ〜と取り付く。やっと土屋 L の基に到着。難所を抜けると先に通過した女子達が「こみちゃん！虹！」と。見上げると空に虹が！「頑張ったご褒美だね〜」の言葉に涙が…。(佐藤さん解説：虹ではなくて環水平アークという珍しい現象との事。どちらにしる感動！)

あるトラバースでは、見るからにカチカチ雪とふかふか雪の二層で足場が崩れそう…。佐藤さんがリードで行き、ロープを確保してもらおう。女子 2 名通過。ロープを張ってもらい、私も出発するが足場を崩してしまう。ロープを頼って浮上する。タイプロックはキキがよく、軽くて便利だと思った。最後の土屋さんの足場を崩してしまっすみませんでした。合計 6

～7回ロープを出す。

13:00 潤沢岳最低鞍部に到着する。ココからエスケープもできるそうだが、そのまま行く。ドーンとそびえる岩峰を見て、梯子を一步一步進む。夏と同じルートで、足場はしっかりしているので気持ちは楽になった。岩の稜線を進み、14:25 潤沢岳山頂へ到着する。山頂標識に Touch&go、休まず通過、穂高岳山荘が足元に見えてきた。少し安心する。後はどんどん下る下る。14:50 山荘に到着。奥穂登頂は断念し、休憩をとってから潤沢に下山する事となる。潤沢のテント場がよく見える。蟻の行列のように上高地からの人がテント場に入っている。昨日以上に人が入ってきているようだ。

休んでいるとパトロールの人が山荘テラスと、奥穂に向かう岸壁を一段上がった所に待機しているのが見えた。何かあったのかな…。ほどなくヘリがやってきて、ホバリングしながら人を釣り上げている。要救助者がいたようだ。あんな崖っぷちでも救助できるなんて…救助の皆さんの努力には本当に頭が下がる思いだ。

15:20 潤沢に向けて下山開始する。ザクザクと斜面を下り中腹まで来ると、みな次々と尻セードで下る。土屋 L と私はしばらく歩いてしたが、ついに?土屋 L も尻セードを開始する。仕方なく自分も尻セード(ノロノロの漕ぎセード)で頑張る。16:20 テントに到着！北穂、潤沢岳、ザイテングラート、と今日行ったルートを目でたどると感動して涙が出た。

今日のご飯はマーボなすとたらこスパゲティ。土屋 L がメニューも全部考えて用意してくれた。ひとしきり今日の山行談議に盛り上がる。青い空と白い雪、360° の展望、気持ちのいい風、コワイトラバース、稜線の景色、色々思い出してまたウルウルした。

トイレに行って、帰り道に「星がきれいだなあ～」などと感動していたら、テントが見つからない…汗。すごい数のテントの中、どうしても見つけられず 30 分以上もテン場遭難した。半泣きになって探し、やっと発見、半世紀ぶりに迷子の子供体験をした。

翌日最終日もいい天気。予報では下り坂だが、まだもっているようだ。土屋 L を残し、後のメンバーは下山する。今晚は一人静かに過ごすそう。潤沢でのんびり、そんな山行もいいなあと思った。1 日目の嵐の様な時は一人では不安だが。

7:30 潤沢を出発する。ザクザク進む、登りはあんなに大変だったのに下るのは早い。本谷橋を通過したのに気が付かず、もうすぐで横尾だ。一休みして徳澤園へサッサか歩く。女子 2 人はやや足取りが重い。3,000m であんなに早く登っているのに、平地ではアドレナリンが出ない様子…。3,000m 岩雪を楽しめる、スゴイ二人だ。徳澤園でソフトクリームを堪能し、12:30 上高地へ到着する。すごい人ヒトヒト。GW の上高地はこんなにも人がいるんだ～。タクシー乗り場で少し並ぶものの、すぐ乗り込めて沢渡へ。竜島温泉せせらぎの湯で汗を流し帰葉する。

今回、残雪期の北穂～涸沢岳という自分には少し背伸びした山行に参加できて、色々なことを感じる事ができました。土屋 L、リードや配慮をありがとうございました。遅い足取りの私と一緒にいてくれた佐藤さん、お手本となって前を歩いてくれた澤田さん・宮城さん、本当にありがとうございました。私ももっと楽しめるように、体力や技術習得に努めたいと思います。

小宮山







